

第 81 回大分県発明くふう展
作 品 説 明 書

記入不要

【作品名】

車に乗せた赤ちゃんをあやしてくれる「赤ちゃんトントン^{あか}&クルクル^{アンド}」

【発明のポイント】(発明のきっかけ、特徴、くふうした点、苦労した点など)

- ・お父さん、お母さんが、車に赤ちゃんを乗せて出かけたとき、ベビーシートの赤ちゃんが泣き止まなくて困った。そこで、赤ちゃんが安心して泣き止んで、お父さん、お母さんが運転に集中できて交通安全につながる装置があったらいいな、と思って考えました。
- ・おいた発明クラブで、ロボットの製作に取り組み、モータや歯車、プーリー、電気回路などの仕組みや使い方を学んだので、それらを使って新しい装置が作れないか考えました。
- ・トントンの速さを変えられるようにして、赤ちゃんの呼吸や性格、その時々のおもちゃの気分に合わせて、最適な速度に調整できるように、工夫しました。
- ・手の長さを変えられるようにして、赤ちゃんの大きさや成長に合わせて最適な位置に手が来るように工夫しました。
- ・1つのモータで、手がトントン動くだけでなく、上のおもちゃもクルクル回るように工夫しました。
- ・赤色 LED を取り付けて、電源が入っているのを確認しやすいように工夫しました。
- ・腕の部分には、プラスチック段ボールを使い、なるべく軽くなるように工夫しました。
- ・手には、表面に綿の軍手、中身はスポンジを使い、赤ちゃんにやさしくトントンできるように工夫しました。
- ・手を下ろすときは手の重さだけで自然に下りるようにして、赤ちゃんが動いても痛くないように、任意の高さで止まるように工夫しました。
- ・クルクル回るおもちゃは、中に仕切りを付けて、丸いボールやリボンが不規則に変化するようにして、赤ちゃんが落ち着いて、興味を持つように工夫しました。
- ・外装には木材を使用して、自然環境に優しく、赤ちゃんが触ってもぬくもりが感じられるように工夫しました。

【使い方・説明図】(絵や写真などを使用してもかまいませんので使い方をわかりやすく説明してください。)

- ①赤ちゃんを車のベビーシートに乗せてから、「赤ちゃんトントン&クルクル」を車のベビーシートに固定する。
- ②「赤ちゃんトントン&クルクル」の手の位置を調整する。
- ③速度調節用のボリュームを一番「遅い」方向に回してから、電源用のスイッチを入れる。
- ④赤色 LED が点灯しているのを確認してから、速度調節用のボリュームを「早い」方向に回しながら、赤ちゃんが喜びそうなトントンの速さにしてあげる。
- ⑤使い終わったら、電源用のスイッチを切る。

◆作品制作者◆

学校名	大分市立明治小学校 (5年)	氏名	高橋 健太郎
学校名	大分市立明治小学校 (2年)	氏名	高橋 孝太郎

※ 「作品説明書」は「応募用紙」と併せて大分県発明協会事務局へ郵送または FAX にて提出ください。

※ 植物・動物・食品等の持ち込みが必要となる作品の出品はできません。

第 81 回大分県発明くふう展
作品説明書

記入不要

【使い方・説明図】

車に乗せた赤ちゃんをあやしてくれる^{あか}「赤ちゃんトントン&^{アンド}クルクル」使用例

